

むつ市議選 杉浦弘樹さんを推薦！ 8 月 31 日全黨員集会で確認

日土代表代行の病気による立候補断念を踏まえて総支部三役は社民・平和労組合同下北ブロック選対会議の議論経過を踏まえて、先の県議選で惜敗した杉浦弘樹氏や後援会スタッフと協議を重ねてきました。

その結果、杉浦氏も県議選の枠組みを維持しながら無所属での立候補を決意しました。

これを踏まえて、31 日総支部黨員集会を開催しました。集会では日土氏降板の経過を確認しながら、三役の提起した議案について議論を行い、何としても市民と市議会を繋ぐ野党議員は確保すべきとの判断から同氏の推薦を決定しました。



杉浦予定候補と下北総支部でを確認しました～党県連合へも推薦要請へ

8 月 31 日の全黨員集会での確認を踏まえ、9 月 2 日早速、杉浦後援会と総支部間で政策協定内容について協議をし、ほぼ県議選時の内容に日土当初候補の政策を追加した内容で合意しました。これを踏まえて総支部としても党県連合へ推薦要請をすることを決定しました。

また、杉浦後援会として社民党以外の国民民主党及び

立憲民主党へも推薦要請をしていくことになりました。

このことにより、県議選同様の対応の枠組みが可能となり、連合青森などの組織へも推薦要請をしていくこととしました。

なお、選挙事務所は日土事務所をそのまま使用することとし、電話・FAX もそのまま使用します。

【合意した政策協定内容】

2019 年 10 月施行のむつ市議会議員選挙にあたり、社会民主党下北総支部が、立候補予定者「杉浦弘樹（すぎうらひろき）」を推薦するにあたり、次のとおり政策協定を締結する。

1. 現行憲法を遵守し、その理念を踏襲した県政確立に努力します。
2. 再生可能な自然エネルギーの促進を図り、原子力に依存しない地域経済の確立を目指します。
3. 原子力施設については安全・安心を第一義に実効性ある防災・避難対策を確立します。
4. 少子高齢化対策として農林水産業、観光事業などの地場産業を活性化し、雇用創出を図ります。
5. 医療・介護・福祉を充実し、住民の健康・子育て・老後の暮らしに安全・安心を図ります。
6. 最低賃金引き上げ、非正規労働者の正社員化など労働条件の中央との格差解消に努力します。
7. 交通弱者を守るため市内全域の公共交通（生活交通）の維持・充実と活性化に努力します。
8. 市民に信頼される議会の改革へ向け、議会基本条例の充実や傍聴しやすい夜間議会の開催を目指します。
9. 個別の地域課題の策定や課題実現に向けて社民党・平和推進労組会議と逐次協議の場を持ちます。

選対委員長には木下千代治氏が就任！

政策協定案が双方で確認されたことを踏まえ、選対結成の概要についても確認しました。選対委員長には木下千代治氏（党総支部顧問）が就任し、目時総支部代表が副委員長、山本信悦後援会長が事務局長、会計責任者として新保英治前県議とすることなどを確認しました。

その他、党総支部としても可能な限り黨員を事務局スタッフとして配置し、取り組むことを確認しました。

事務所開きは 20 日（金）に決定！

選挙事務所は前述のとおり、中央二丁目の日土事務所とし、9 日より事務職員（川口佑香さん）を月～金曜日に配置します。また、事務所開きは同所において 9 月 20 日（金）午前 11 時より行うこととしました。

厳しい短期決戦となり難しい闘いになりますが、党としても公認並みの行動で市議会と社民、労組の窓口を死守する決意です。

『脱原発をめざす首長会議』 下北半島ツアーで 9 名が来市 <8 月 18 日>

鹿内博元青森市長（現青森県議会議員）を団長とする『脱原発をめざす首長会議』のメンバーが六ヶ所核燃サイクルなど下北半島に存在する核関連施設の視察のため 8 月 17～18 日に来県しました。初日は山田清彦核燃訴訟一人原告団事務局長の案内で六ヶ所村や東通村の施設を訪問しました。

翌 18 日にはむつ市内に入り、栗橋が下北半島の原子力開発の歴史などをレクチャーしながら原子力船「むつ」の原子炉（むつ科学技術館に展示）や使用済核燃料中間貯蔵施設を見て回りました。

視察後は来さまい館に県内外の報道陣を前に記者会見を行い、あらゆる原子力開発のストップを訴えながら、六ヶ所再処理工場の建設中止と福島原発汚染水の海洋投棄反対の緊急声明を発表しました。



2019 年 8 月 18 日

「脱原発をめざす首長会議」緊急声明

六ヶ所再処理工場は廃止せよ

全国の市区町村長とその経験者でつくる、私たち「脱原発をめざす首長会議」は 8 月 17 日、18 日の両日、青森県内にある核燃料サイクル関連施設を視察するとともに、地元関係者からの説明を受けた。

日本原燃は、六ヶ所再処理工場（青森県六ヶ所村）の 2021 年度上期の完成をめざし、緊急時対策所などの建設を急ピッチで進めている。

しかし、私たち「脱原発をめざす首長会議」は以下の理由から、六ヶ所再処理工場の廃止措置を可能な限り早急にとるよう求めるものである。

1. 核燃料サイクルの基軸であった高速増殖原型炉「もんじゅ」の廃止措置が決定し、核燃料サイクル政策が事実上、破綻していること。
2. 原子力委員会が 2018 年 7 月 31 日、プルトニウムの保有上限を現在の 47 トンとする新方針を決定したことによって、再処理工場が稼働しても低い操業率にならざるをえず、事業を継続すればするほど、国民的負担が増大する恐れがあること。
- 3.. 高レベル放射性廃棄物の最終処分場がない中、膨大な高レベル放射性廃液、廃棄物が行き所なく蓄積されること。

汚染水は海洋放出せず、長期保管の検討を

東京電力は 8 月 8 日、福島第一原発で増え続ける放射性物質トリチウムを含んだ処理水（汚染水）について、タンクでの保管は 2022 年夏ごろ限界になるとの試算をまとめた。一方、タンク内の汚染水をどのように処分するかについて地元関係者だけでなく、政府の有識者委員の間でも合意が得られていない。こうした状況を踏まえ、私たち「脱原発をめざす首長会議」は、大型タンクの設置などによって汚染水を長期保管したうえで最終処分するよう提言する。理由は以下の通りである。

1. 海洋放出案には、風評被害を恐れる漁業関係者の反発が強い。さらに、長期かつ大量となる海洋放出が健康被害をもたらす恐れがあるという専門家の指摘もある。
2. 専門家で構成する原子力市民委員会の報告書によれば、トリチウムの半減期は 12.3 年であり、123 年間保管すれば、タンク内のトリチウム総量は千分の一に減衰する。これは福島第一原発事故発生前に、同原発から海洋放出されていた年間最小値を下回る。
3. 汚染水の対応を検討する経済産業省の小委員会が 8 月 9 日開催され、ここでも委員からタンクの増設する余地はないのかという指摘が相次いだほか、経済産業省は敷地外での保管の可能性についても検討すると伝えられている。

◆8 月 20 日には木下千代治党総支部顧問も「脱原発をめざす首長会議」のメンバーとなりました。

《過去3回のむつ市議選の結果》

市町村合併後の最初の選挙は旧自治体ごとの選挙区を区分した選挙でした。(2007年：平成19年施行)

第13回 平成19年 9月30日執行			
【むつ選挙区】			
当日有権者	39,113人		
投票者	26,561人		
投票率	67.91%		
有効投票	26,274票		
No.	党	候補者氏名	得票数
1	公明	鎌田ちよ子	1,756
2	無	浅利竹二郎	1,691
3	無	山本とめよし	1,373
4	無	さいとう孝昭	1,366
5	無	白井二郎	1,337
6	無	菊池ひろし	1,302 ³²⁴
7	無	村中てつや	1,238
8	無	川下八十美	1,120
9	無	菊池一郎	1,106 ⁶⁷⁵
10	無	富岡オサム	1,102 ⁷²³
11	無	村川としじ	1,086
12	共産	よこがき成年	1,055
13	無	野呂やすひろ	1,054
14	無	佐々木はじめ	1,051
15	民主	あらやたいぞう	1,050 ³⁷⁴
16	無	川端澄男	1,014
17	無	富岡ゆきお	970 ²⁷⁶
18	無	高田まさとし	968
19	無	中村まさし	939
20	無	馬場重利	906
21	無	新谷いさお	870 ⁶²⁵
次	社民	日土じゅん	845
	民主	石田勝弘	671
	無	佐藤司	401

第14回 平成23年10月 2日執行			
当日有権者	51,926人		
投票者	33,546人		
投票率	64.60%		
有効投票	33,218票		
No.	党	候補者氏名	得票数
1	無	村中てつや	1,892
2	自民	浅利竹二郎	1,842
3	無	佐々木たかのり	1,511 ²³¹
4	社民	目時むつお	1,501
5	無	はまだ栄子	1,471
6	自民	大滝つぎお	1,467
7	公明	鎌田ちよ子	1,466
8	無	菊池ひろし	1,294 ⁸³⁸
9	自民	半田義秋	1,284
10	無	山本とめよし	1,258
11	無	さが英生	1,244
12	共産	工藤たかお	1,211
13	無	さいとう孝昭	1,207
14	無	白井二郎	1,168
15	無	上路のりあき	1,057
16	自民	中村まさし	992
17	無	岡崎けんご	987
18	公明	菊池みつひろ	986 ¹⁶¹
19	無	川下八十美	961
20	無	富岡ゆきお	899 ⁷⁵⁵
21	無	東健而	876
22	無	村川としじ	805
23	無	石田勝弘	800
24	無	佐々木はじめ	799 ⁷⁶⁸
25	無	富岡オサム	777 ²⁴⁴
26	共産	よこがき成年	764
次	無	野呂やすひろ	752
	無	高田まさとし	747
	無	新谷いさお	633 ⁰⁵⁷
	無	あらやたいぞう	563 ⁹⁴²

第15回 平成27年10月 4日執行			
当日有権者	50,229人		
投票者	31,443人		
投票率	62.60%		
有効投票	31,065票		
No.	党	候補者氏名	得票数
1	自民	浅利竹二郎	2,150
2	無	山本とめよし	1,585
3	自民	大滝つぎお	1,431
4	無	村中てつや	1,345
5	公明	かまたちよ子	1,344
6	無	原田としまさ	1,311
7	社民	目時むつお	1,249
8	共産	くどう祥子	1,243
9	無	白井二郎	1,208
10	無	さいとう孝昭	1,146
11	無	佐々木たかのり	1,116 ⁶⁷⁶
12	無	はまだ栄子	1,093
13	無	野呂やすひろ	1,091
14	共産	よこがき成年	1,041
15	公明	菊池みつひろ	1,002 ⁰²⁴
16	無	菊池ひろし	977 ⁹⁷⁵
17	無	さが英生	970
18	無	川下八十美	952
19	無	佐々木はじめ	892 ³⁰¹
20	自民	富岡ゆきお	890 ⁵⁹¹
21	自民	中村まさし	866
22	無	東健而	861
23	無	石田かつひろ	828 ⁰⁷⁷
24	無	富岡オサム	827 ⁴⁰⁸
25	自民	半田義秋	774
26	無	岡崎けんご	759
次	無	上路のりあき	732
	無	あらやたいぞう	579
	無	高橋一	458 ⁰²¹
	無	石田正俊	341 ⁹²²

第13回 平成19年 9月30日執行			
【大畑選挙区】			
当日有権者	7,476人		
投票者	5,528人		
投票率	73.94%		
有効投票	5,501票		
No.	党	候補者氏名	得票数
1	無	沢藤一雄	991
2	無	川端一義	902
3	無	目時むつお	792
4	無	千賀武由	700
次	無	はまだ栄子	652
	無	中島康夫	603
	民主	さが英生	493
	無	沢田博文	232
	無	堺孝悦	136

第13回 平成19年 9月30日執行			
【川内選挙区】			
当日有権者	4,424人		
投票者	3,598人		
投票率	81.33%		
有効投票	3,580票		
No.	党	候補者氏名	得票数
1	共産	工藤たかお	890
2	無	半田義秋	708
3	無	岡崎けんご	686
次	無	東けんじ	552
	無	さかい一利	317
	無	板井磯美	227
	無	福永忠雄	200

第13回 平成19年 9月30日執行			
【脇野沢選挙区】			
当日有権者	2,008人		
投票者	1,726人		
投票率	85.96%		
有効投票	1,721票		
No.	党	候補者氏名	得票数
1	無	佐々木たかのり	557
2	無	山崎隆一	502
次	無	杉浦モリヒコ	455
	無	東谷良久	207

(1) 日土候補、立候補断念の経緯

- ・ 参院選活動頃より、かねてよりの持病である慢性腎臓病悪化により精密検査を実施
- ・ 精密検査の結果、透析治療が必要と診断される（7月中旬）
- ・ 本人は選挙戦や選挙後の行動に制約の少ない「腹膜透析」による治療を選択
- ・ 総支部としては県連合との打ち合わせの上で、本人と相談、症状の急変がない限り、治療と並行して既定方針通り選挙戦を継続することを確認（7/28）
- ・ 治療準備および治療訓練のため、むつ病院へ入院（7/31～8/21）
- ・ 県連三上代表が病状や「腹膜透析」のリスクなどを総合的に判断し、立候補を断念させるべきと判断し本人と面会し説得、総支部三役と協議の上、断念を確認（08/08）
- ・ 当初より開催予定されていた「ブロック選対会議」へ選対執行部として立候補断念を提案（08/09）
- ・ ブロック選対会議では執行部方針を了解の上、次善の対応方針が求められ、執行部としても不戦敗ではなく、「党公認」は無理でも「推薦」や「支持」候補を見出したいと表明、参加者からは杉浦弘樹氏、藤森友子氏など前県議候補名が挙げられた
- ・ 党県連常任幹事会で立候補断念を確認（08/10）

(2) 次善の方針確立への経緯

- ・ ブロック選対会議終了後、党三役で協議し、目時代表より非公式に杉浦弘樹氏へ状況を説明し、立候補の意思などを打診（08/11）
- ・ 杉浦氏サイドでは後援会とも相談しながら、後日、返答することになった
- ・ 後援会メンバー（山本後援会長、能登幹事長）と党三役で協議、協議の中で杉浦氏の立候補の意思を確認
- ・ 立候補に際しての選挙全体の枠組みや党の具体的対応策についてはあらためて協議することとした
- ・ 総支部としては県連合や県平和労組会議と打合わせを繰り返して支援方針を確立することとした

(3) 杉浦氏への対応

- ・ 杉浦陣営は前回の県議選選対の枠組みを基本とし、国民民主党の党籍を持つままで無所属扱いとなる予定
- ・ その背景は杉浦氏の支持基盤が社民、立憲民主と重なることや市議選という地域密着の活動が求められることから後援会などの判断による
- ・ 支持基盤となる推薦労組などを持たないため、国民民主党の党籍を持つことにより連合青森などの推薦または支持、協力が可能になることなど挙げられる
- ・ 総支部としても『勝てる選挙』のためにも杉浦後援会が県議選並みに一枚岩となってフル活動することを前提に党推薦候補として県連合にも具申しながら進める

(4) 今後の対応

- ・ 日程的な問題等もあり、県平和労組や党県連と協議した結果、ブロック選対の構成は見合わせる
- ・ 従来のブロック選対構成組織については個別に訪問しながら党総支部の基本スタンスを説明し、可能な限りの支持協力を訴え、組織内におけるリーフ配布行動などの教宣活動をお願いする
- ・ 県議選の際の同氏との政策協定内容をベースに日土選挙政策の擦り合わせを行い、あらためて政策協定を行う
- ・ 各労組OB会については会員名簿の利活用やポスター貼り行動などでの協力が不可欠であることから連合高退協と協議しながら一定の対応を検討していく
- ・ 杉浦選対会議のあり方についても意見反映をさせながら主体的に関わって行くこととしたい

(5) 経費問題

- ・ すでに支出済の費用については、党からの交付金及び総支部からの拠出及び各種カンパの一部を賛同者の了解の上、精算する
- ・ 各種カンパについては一部を経費に充当し、残金を本人へ療養見舞金、生計補填分として交付
- ・ 候補者自己拠出分については原則として本人へ返却する

日土潤候補出馬断念!! 意思を受け継ぐ杉浦弘樹氏に国民、立憲、社民がスクラムを組んで必勝態勢を!

社民党下北総支部 代表 目時睦男

社民党公認で市議選に立候補を予定し昨年4月より精力的に活動してきた「日土潤総支部代表代行」が体調不良で入院し、断腸の思いでの出馬断念を受け、先の県議選で次点と涙を飲んだ杉浦弘樹氏が『議会と市民の架け橋』となって、市政刷新と議会活性化をめざす日土潤候補の意思を受け継ぎ、その政策実現に向けて出馬を決意し、政策協定にもその内容を盛り込みました。

9月2日の東奥日報夕刊の「世相川柳」に日土さんのお母さんの下記の句が掲載されました。

「子が病みて身代わり頼み神頼み」

その思いを受け出馬を決意した杉浦弘樹予定候補の必勝に残された期間は短く、厳しい闘いですが国民・立憲・社民三党が結束し必勝体制での取り組みを確認しました。

全黨員、協力黨員のみなさんの公認候補並みの活動をあらためて強く訴えます。

